



# 第5回札幌市ウォーカブルビジョン 策定検討委員会(最終回)



日時:令和8年(2026年)2月26日(木)  
13時00分～ ※オンライン開催  
開始までしばらくお待ちください

# 本日の流れ

## 1. 開会挨拶

## 2. 事務局説明

- 1)「Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン」最終案
- 2)ビジョン実現に向けた今後の取組案

## 3. 質疑

## 4. 閉会挨拶

# 1

## 開会挨拶

札幌市まちづくり政策局政策企画部  
須志田 健 政策推進担当部長

# 2 事務局説明

---

1)「Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン」最終案

# スケジュール（ビジョン策定以前）

10地区を超える現場での実証実験、300名を超える主体的な市民参加、多様な産学官連携により、ビジョン最終案が完成。

令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
<b>【凡例】</b> ○：庁内会議 ●：検討委員会 ■：市民参加 ▲：産学官連携	○庁内PT組成 (都心・拠点・住宅市街地)			●第1回： ○推進本部会議 (第1回)	●第1回： (ビジョン構成案／実証実験計画案)	○公募型実証実験 (平岸・宮の沢・真駒内)	▲DX WEEK 企業政策提言	■市民成果報告会 市民ワークショップ(冬)	▲世界冬の都市市長会議	○冬の实証実験 (新札幌・借楽園緑地)		●第3回： (ビジョン骨子案)	
			■サッポロウォーカーカブルシンポジウム2024						●第2回： (実証実験結果報告 ／ビジョン中間骨子案)				
令和7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
			○推進本部会議 (第2回)		●第4回：※対面開催 (ビジョン素案)		▲北海道大学「パブリックデザイン演習」政策提案					●第5回：今回 (最終案)	★ビジョン 策定・公表
	▲北海道大学 「新渡戸カレッジ」政策提案						庁内最終合意形成(企画調整会議)		議会説明	パブコメ			

## 第4回検討委員会(7/29)の実施結果 概要①

ビジョン素案についてご意見いただいた第4回検討委員会のご意見及びそれに対する主な対応は以下のとおり。

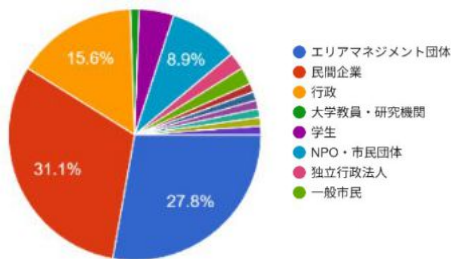
章・項目	ご意見の概要	主な対応
2章	5つの重点方針に少し唐突感がある。このダイアグラムに共感を得るため、それぞれ簡単な説明を入れた方がいい。	周知用パンフレット(後述)において表現方法を見直しました。
2章	Well-Moving指標開発では、「30%の市民が年1回は移動中に屋外で久しぶりに友人・知人と出会う(オヒサシビリティ)」といった3～5個程度に分かりやすい目標に集約するのがよい。	次年度に策定予定である「推進プログラム(後述)」において、適切な指標設定の在り方について検討してまいります。
2章	都市空間における遮熱対策への意識をもう少し入れるべき。	本書(P19)夏パースにおいて、緑陰を意識した表現にするなど工夫しました。今後の具体施策においても検討してまいります。
3章	住宅市街地リーディングプロジェクト「本郷商店街」において、このような好事例を今後水平展開していくことを検討すべき。	次年度に取り組む実証実験や、ほこみち指定による効果を評価し、市内各地への水平展開について検討してまいります。
3章	まち歩き研究家ブラサトルさんの例のように、歩くことで歴史や文化に触れることを大切にするとよい。	本書(P37)に書き下ろしコラムを追加掲載し、次年度以降に歴史まち歩きツアーを企画するなど連携を深めてまいります。

## 第4回検討委員会(7/29)の実施結果 概要②

章・項目	ご意見の概要	主な対応
3章	概要版の本郷商店街の暗い写真の例など、掲載する写真の選定には気を配り、文章との相乗効果を図るべき。	ご指摘の箇所をはじめとして、全体的に採用する写真について見直しを行いました。
3章	モデルケースの記載については、他地区において参考になるポイントを明確化することで水平展開しやすく工夫するべき。	北3条広場(本書P52)の後半部分をはじめとして、各関係者と調整の上、記載内容を見直しました。
4章	エリアマネジメント団体の卵をどう資金的にも支援していくかなど、総合的な対策を構築する必要がある。	次年度に設立予定である「Well-Moving Network(プラットフォーム)」において、市内のエリアマネジメント団体との連携を深めるとともに、適切な支援体制について検討してまいります。
4章	「あるかざる」をキャラクター化するなどして、まちづくりの未来を担う子どもたちへの訴求力を高めるべき。	周知用パンフレット(後述)において、オリジナルキャラクターを制作しました。今後、多角的に活用してまいります。
4章	明確な指標の設定など、ビジョンの進捗管理が適切に行われるような仕組みを今後構築すべき。	次年度に策定予定である「推進プログラム(後述)」において、進捗管理フローを明確化し、前述の指標検討と併せて進めます。
4章	パブリックスペース活用ガイドラインが形骸化しないように、管理者研修などのマインドセットも併せて実施するべき。	ガイドライン完成後も、各管理者との対話や、活用する民間団体等からの声をもとに適切な更新体制を整えてまいります。

# サッポロウォーカーカブルシンポジウム2025の実施結果

産学官民の多様な人材が135名参加。ビジョン素案への意見をいただくほか、市内各地のまちづくり団体によるトークセッションを実施。



参加者の属性



ビジョンの推進に賛同した割合

シンポジウム後に実施した参加者アンケートでは、回答者の9割がビジョンの推進に賛同。

# シンポジウムに参加した まちづくり団体

(※参加団体を50音順で記載)



## 一般社団法人 新さっぽろエリアマネジメント

設立: 令和4年  
エリア: 新さっぽろ駅周辺地区  
構成員: 11社(社員: 7社、正会員: 4社)  
事業: 「食と健康」をテーマにしたイベントを年に2回実施しているほか、今年度から広告看板事業やアクティブガーデンのレンタル事業を実施

## 一般社団法人 まちづくり篠路

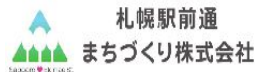
設立: 令和6年  
エリア: 旧篠路村エリア(現在の活動は篠路駅東側地区)  
構成員: 37名(個人会員: 35名 法人会員: 2法人)  
事業: 駅前フェス、歴史的文化保存、道路美化、地域支援

## 学生団体 マルシェ本舗

設立: 令和2年  
エリア: 平岸  
構成員: 学生55名  
事業: 平岸マルシェの運営、商品開発・販売

## 新幹線札幌駅東地区まちづくり勉強会

設立: 令和3年  
エリア: 新幹線札幌駅東改札口周辺  
構成員: 同エリア周辺企業/団体17社  
事業: 地区のまちづくりビジョン・ガイドラインの策定・更新、地域の美化活動等のまちづくり事業



## 札幌の縁側 創成イースト

～ひとりでも、自分らしい時を刻み、  
だれとでも“ご縁”を育めるまち～



## 札幌駅前通まちづくり株式会社

設立: 平成22年  
エリア: 札幌駅～大通駅の札幌駅前通の十街区  
構成員: 札幌駅前通沿道企業などが株主、常勤職員13名  
事業: チ・カ・ホ、アカブラを中心とした各種まちづくり事業(イベント、広告、防災など)、地域の各種協議会等の事務局、民間開発の支援・調整

## 創成イーストリンク

設立: 令和7年度に設立予定(令和5年度から活動)  
エリア: 創成東地区  
構成員: 調整中(地域の企業や団体、町内会等を想定)  
事業: 創成東地区のビジョン策定・地域との共有、地域内の多様な主体と子どもたちのまちづくり活動を支援

## 道庁南エリア研究会

設立: 令和3年  
エリア: 北海道庁南側～大通公園までの地区  
構成員: 21団体  
事業: まちづくりビジョン、ガイドラインの策定および実現に向けた検討、社会実験の実施

## 時計台周辺地区まちづくり協議会

設立: 令和4年  
エリア: 時計台周辺  
構成員: 同エリア周辺企業/団体5社  
事業: 地区のまちづくりガイドラインの更新・共有、地区内における建築行為に対する事前協議

## マコエキ会

設立: 平成29年  
エリア: 真駒内  
構成員: 地域住民15名  
事業: 真駒内らしい景観や暮しの賑わいに関する勉強会、真駒内景観指針作成に向けた活動

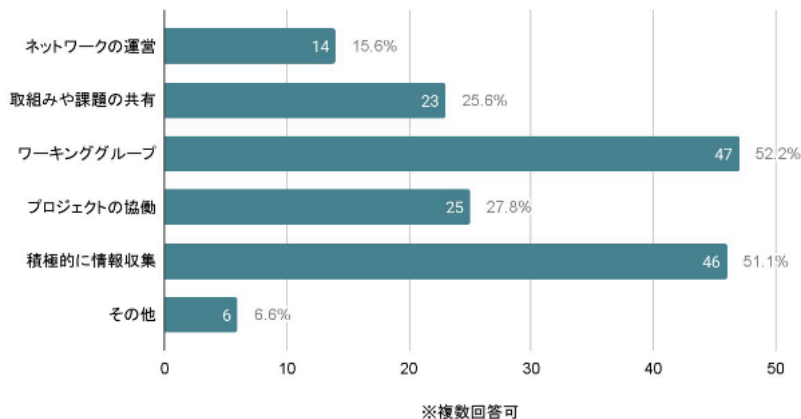
## 宮の沢まちづくり協議会

設立: 平成29年  
エリア: 宮の沢  
構成員: 同エリア周辺企業/団体等7団体  
事業: 宮の沢地域の活性化に資する事業及び協議、まちづくり計画の策定、その他協議会の目的を達するために必要な活動

# シンポジウム参加者からの声 抜粋

アンケート回答者の半数以上が、共創ネットワークに関わり続けたいと回答。

産学官民の共創ネットワークが設置された場合、どのように関わりたいか



産

地下鉄、JRが整備されていないエリアからでも、中心部へ出かけたくなる仕掛け作りや移動手段の整備を推進してほしいと感じる。



学

子どものころから自分の住む町で新しい人と出会えたり新しい活動に参加することは町への愛着や思い入れにもつながるとかんがえるため、学校などとも連携しながら子供たちを積極的に巻き込んでいってほしいと思います。



官

車中心から人中心。駅から住宅まで、商店街であっても歩道が狭く、ベビーカーで通るのが大変。道路の幅が狭く歩道が広いと、商店にも行き来しやすい。もっと歩きたくなる。



民

車の音よりも、子どもたちや家族や友達などの声の音が増えるような、音の風景が変わってほしいなと思いました。

## パブリックコメントの実施結果 抜粋①

- ・1/9～2/9実施。市HP、本庁舎、10区役所、86まちづくりセンターにて公開
- ・意見数32件(意見者数15名)。全意見の概要は3月公表予定

章・項目	ご意見の概要	主な対応
1章	「人中心のまちづくり」「歩かざるまち」という考え方に共感しており、この取り組みが <u>都心部だけでなく、郊外や生活圏にも広がることで、札幌市全体の暮らしやすさが向上することを望む。</u>	ご指摘のとおり、比較的投資の集まりやすい都心部だけでなく、地域交流拠点や住宅市街地においてもそれぞれの特性に合った「歩かざるまち」を目指す取り組みを推進してまいります。
2章	「Well-Moving」という独自の造語を、 <u>外国人の誤解を防ぐため、英字ではなくカタカナ表記にしようか。</u>	国外におけるウォークブル先進都市との連携も見据え英字表記としています。誤解を招かないよう副題やイラストも併記するなど、表現方法を工夫してまいります。
3章	大通公園について、 <u>駅前通と石山通を除き連結させ、外周にジョギングコースと自転車専用レーンを設置してほしい。</u>	大通公園周辺の空間形成につきましては、大通公園だけではなく、周辺道路や街区を含めた一体感のある空間を目指し、道路再編等の物理的整備に限らず、持続的な活用策など、様々な方向性で検討を進めてまいります。
4章	取り組み自体は非常に良いと感じたが、地域側の実行ハードル(コストや地域住民の理解)が高いと感じている。 <u>より取り組みやすくなる事例の共有や支援制度があるよい。</u>	「(仮称)パブリックスペース活用ガイドライン」を作成し、公共的空間の活用事例や活用方法、活用手順をわかりやすく周知してまいります。さらに次年度に組成を検討している「(仮称)Well-Moving Network」などを通じて地域プレイヤーの皆様と対話を重ね、より効果的な支援制度のあり方についても検討してまいります。

# パブリックコメントの実施結果 抜粋②

章・項目	ご意見の概要	主な対応
3章	民有地の公共的空間を活用したキッチンカーやオープンカフェ等の収益事業は、 <u>収益の一部をエリアマネジメント(除雪等の維持管理費)に還元する仕組みを構築する等、ウォーカブルな空間作りを「経済合理性(稼ぐ力)」に基づいた官民連携の「投資」と位置づけるべき。</u>	本市の一部エリアでは、オープンスペースの貸出収益を維持管理費や地域まちづくりに充当する仕組みを構築しており、今後もこうした取組みを活かしたウォーカブルな空間形成を推進してまいります。
3章	冬季において「外出したくてもできない人」が存在する現実を踏まえ、例えば「健康拠点と連動した看護師同行デマンド交通」など、 <u>安心して外出できる仕組みを同時に整えていくことが不可欠と思う。</u>	「外出したくてもできない」には様々な要因があると思われませんが、特に健康上・身体的理由により困難を抱えている方への支援策として、いただいたご意見も踏まえて、今後も検討を進めてまいります。
3章	屋外において「歩く」ことに限定せず、地下歩行空間や公共施設・商業施設等を目的としたウェルネスツアーを実施し、 <u>屋内で安全に歩く・動くことを促す施策を官民協働で取り組むべき。</u>	ご指摘のとおり、必ずしも「屋外で歩く」ことに限定せず、地下・屋内空間を活用した施策も含めて推進を図ってまいります。
3章	自転車通行空間の確保について、 <u>現状の矢羽根型路面表示だけでなく、山形市のようにゴム製のポールなどで車道と明確に区別すべき。</u>	路上駐車抑制や荷さばき駐車車両の対策、車道幅員構成や車線数の見直しによる道路空間の再配分の可能性を検討することにより、自転車が通行しやすい道路空間の確保に取り組んでまいります。
全体	都市空間コンセプトと重点方針がわかりやすく、札幌がWell-Movingなまちになっていくことに期待している。 <u>今後は目指すまちの姿や具体的な取組が市民1人ひとりに浸透するような効果的な広報が必要だと思う。</u>	現在作成中である「周知用パンフレット」や「ロゴマーク」、「ポスター」、「(仮称)パブリックスペース活用ガイドライン」などを用いながら、今後効果的な広報に取り組んでまいります。

## 周知用パンフレット(現在制作中)

都市空間コンセプトWell-Moving City SAPPOROへの理解を深め、5つの重点方針や目指すまちの姿を紹介。多様な主体の参画を促す内容に。



Well-Moving City  
SAPPORO

Well-Movingロゴについて複数検討中

### ○制作の背景:

理念的で網羅的であるビジョンについて、「直感的に何を目指しているかわかりづらい」、「つい参加したくなるような仕掛けが必要ではないか」との声を受けて作成

### ○想定使用シーン:

シンポジウムや市内各地のまちづくりイベント等で直接手渡し、参画の呼びかけをする際に使用(×パンフレットラックに配架のみ)

### ○参画者を増やす工夫:

親しみやすいキャラクターと、最後に各主体毎の参画方法をチェックできる仕様。さらにPS活用ガイドラインへの導線も用意



## ※作成中イメージ

パブリックスペース(公共的空間)は  
市民だれもが使える自由な場所  
あなたの「やってみたい!」を  
実現するガイドブックを作りました

道路・公園・広場など、札幌市のパブリックスペースで、フリーマーケット・マルシェ・ライブ・展示会・映画上映・キッチンカーの出店etc...

いろんなアイデア、いろんな「やってみたい!」を実現して、誰もがWell-Moving なまちづくりに参画できるように、手続きや申請フローをわかりやすく整理しました。



QRコード  
URL



Well-Moving City SAPPORO

2045年まで、時間はまだまだあります!

だからみんなで、楽しみながらつくりましょう

それぞれを、ともにすすめる  
Well-Moving Network

(詳細情報スペースを空けております)

本書のDL用  
QRコード  
URL

裏表紙

正方形(210×210mm)の全12P構成を予定

心も一緒に動くまち



Well-Moving City  
**SAPPORO**

2045 VISION



表紙

## ※作成中イメージ



春夏秋冬  
地上も地下も  
老若男女 関係なく  
市民はもちろん  
一時的な来訪者でも



いつでも  
どこでも  
誰もが心地よく  
心も一緒に  
動くまち、札幌



「Well-Moving City SAPPORO (ウェルムービングシティサッポロ)」

札幌市が20年後の未来を見据えて定めた、  
新たな都市空間のコンセプト



Well-Moving City  
SAPPORO

歩く                  できる                  歩ける／歩きたくなる

**Walk + Able = Walkable**

それぞれの良い状態

歩かざる／動かざる

**Well-being + Moving = Well-Moving**

移動する

感動する

心が動く

世界的なまちづくりのムーブメント「Walkable (ウォーカーブル)」

札幌市では、その概念をさらに深め、「心も一緒に動くまち」を目指します



「Well-Moving」という新しい言葉の日本語訳に、私たちは「歩かざる (動かざる)」という北海道弁を充てました。「～ざる」という方言は、「環境ゆえにそうしてしまう」という意味を持つ、とてもユニークなことばです。四季折々の風景と街並み、鳥のさえずりや心地よい喧騒、行く先々で出会う人々との交流が、一つの街を織りなして、一人ひとりの五感をひらき、誰もが自然と「歩かざる」。そんな、札幌発の新しい“心も一緒に動くまち”を目指します。



Well-Moving City  
SAPPORO

2045 VISION

## 5つの重点方針

Well-Moving Cityを目指すことは、さまざまな街の課題を解決することにつながります。活気やにぎわい、人との出会い、健康な暮らし、安心・安全、豊かな自然、誰にとっても優しい街を、次の世代に引き継ぐために、今取り組めることがあります。

このキャラは、  
イラストの人たちと交友しているイメージ  
無言



歩くことが楽しく、  
健康に暮らせる

歩くことが「楽しみ」に  
自分のペースで健康づくりできるまち



札幌らしく、  
四季を通じて  
歩かざる

冬ならではの景色や灯りを楽しめる  
自然と外へ、歩かざるまち



居心地が良く、  
自分らしくいられる  
居場所がある

気軽に居られる「余白」がある  
居心地のよい空間があるまち



環境に優しく、  
みどりとともに暮らせる

車でもいい。でも、車じゃなくてもいい  
移動手段を選べるまち



誰もが安心して、  
円滑に移動できる

文化・言語・国籍・老若男女や障害・能力を問わず  
誰にとっても移動しやすいまち



# ※作成中イメージ

## Well-Movingな 都心部

巡るたび、また巡りたくなる。  
好奇心の積もる街並み。



## Well-Movingな 住宅市街地

自分らしく、気兼ねなく、出かけ愉しむ。  
自然が彩る心地よい暮らし。



## Well-Movingな 地域交流拠点

行きも帰りも寄り道せずにはられない。  
賑わい、出会いのターミナル。



このキマは、まごめめコメント

### 地域交流拠点

快適に移動ができ、  
待ち時間さえも楽し  
んでいる風景

※季節：夏  
※時間：平日夕方



### 都心部

地上と地下を最大限  
に活用して季節を楽し  
んでいる風景

※季節：冬  
※時間：休日夜間



### 住宅市街地

誰もが思い思いに通  
ごしている身近な公  
園の風景

※季節：春  
※時間：平日昼間



# ※作成中イメージ

みんなで一緒につくろう Well-Moving City SAPPORO

## Well-Moving City SAPPORO のまちづくり どこがあなたの活動場所ですか？



### 産



#### 民間企業等

- ・民間施設等における低層部のにぎわいや良質なオープンスペースの整備、運営
- ・公開空地等、公共的空間の積極的な活用
- ・エリアマネジメント等、地域まちづくりへ主体的な参加

生活者の視点からパブリックスペースを積極的に使いこなし、イベントや活動に参加して賑わいを生み出す原動力となります。



### 民



#### 地域住民等

- ・道路、公園、広場等の積極的な活用
- ・エリアマネジメント等、地域まちづくりへの主体的な参加
- ・公共交通機関等の積極的な利用

建物の低層部に賑わいを作ったり、エリアマネジメントに参加したりして、魅力的な空間とサービスの提供を担います。



## 推進体制

「Well-Moving City SAPPORO」の実現には、行政のみで実施することなく、産学官民の強みを生かし合う「共創」が重要です。またパブリックスペースと一口に言ってもその特性や規模は様々であることから、対話と実践を通じて共創関係を構築する「(仮称)Well-Moving Network (共創を支援する場や仕組み)」の設置を検討します

### 学



#### 大学・高校等

- ・大学ゼミや学生団体によるまちづくり参画
- ・エリアマネジメント等、地域まちづくりへの主体的な参加
- ・都市政策等に係る共同研究

都市課題の研究を通じた政策提言や、学生の実践活動(ゼミや探究学習など)を通じて、まちづくりを知的・人的に支えます。



### 官



#### 行政

- ・推進プログラムの策定と計画的なハード整備
- ・分野横断的な推進体制と推進フローの明確化
- ・データの収集、オープンデータ化
- ・規制緩和、支援制度の構築・運用
- ・空間活用×官民共創に係る人材育成

推進計画の策定やハード整備を行うとともに、規制緩和や支援制度を整え、民間主体の活動を後押しする土台を作ります。



# 3 質疑

---

1)「Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン」最終案

# 2 事務局説明

---

2)ビジョン実現に向けた今後の取組案

# 想定スケジュール（ビジョン策定以降）

※本案をベースに、今後庁内外の関係者の皆様と調整を進めます

- ・ビジョン実現のための具体事業等を掲載した推進プログラムを作成
- ・産学官民が「つながる、ためす、育てる場」として庁外Networkを組成

令和8年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
<b>【凡例】</b> ○：庁内体制 ●：産学官連携 ■：広報PR	○推進本部会議（第3回）		Well-Moving推進プログラム（推進計画）の作成						○推進本部会議（第4回）				
	Network: シンポジウム、社会実験など												
	■ビジョン本格リリース パンフ&PS活用ガイドラインPR				■市広報誌 ポスター掲出、ラジオ番組		■広報TV番組 ■都市型複合フェス NoMaps2026連携?				■札幌国際芸術祭 SIAF2027連携?		
令和9年度	4～6月		7～9月			10～12月			1～3月		令和10年度以降		
札幌市次期中期実施計画（アクションプラン）の検討・改定			Well-Moving推進プログラム（推進計画）の更新・改定 ～										
Network: シンポジウム、社会実験など ～													
次年度予算要求						○推進本部会議（第5回）			○推進本部会議（第6回～）				

# 推進プログラム(推進計画)イメージ

※本案をベースに、今後庁内外の  
関係者の皆様と調整を進めます

- ・R8年度中に策定予定。迅速性と実行性を重視し、策定前に関連施策を整理
- ・R9札幌市次期中期実施計画(アクションプラン)策定後に更新・改定を予定

## ■第1章:はじめに

- 1-1:位置づけ…ビジョンの推進計画。期間は5か年程度
- 1-2:推進方針…各事業構築に向けた指針(観点整理)
  - 1)Well-Moving City、そして5つの重点方針への適合
  - 2)既存のパブリックスペースの価値を最大限に引き出す視点
  - 3)多様な主体との協働による利用者目線に立った空間形成 など

## ■第2章:推進戦略

### 2-1:ビジョン指標

- 1)歩いて楽しいと感じる人の割合
- 2)1日あたりの歩行時間
- 3)主要地点のPS活用率 など

### 2-2:5つの重点方針毎の

推進戦略(主要事業含む)とWell-Moving指標

※主観指標と客観指標を組み合わせたエリア評価指標の開発を検討



## ■第3章:横断戦略

- 3-1:エリアマネジメントの推進
- 3-2:Networkの深化
- 3-3:庁内外の人材育成
- 3-4:データ利活用 など

## ■第4章:事業集(毎年更新)

- ・5つの重点方針毎に具体事業を紐づけ
- ※市予算による事業以外も掲載を検討  
例)官民連携事業、大学連携事業等

## ■第5章:評価・改善システム、ロードマップ

- 5-1:庁内外の推進フロー明確化…推進本部とNetwork
- 5-2:短期ロードマップの明確化…リーディングプロジェクト など

# 今後の推進体制 イメージ

※本案をベースに、今後庁内外の関係者の皆様と調整を進めます

推進本部体制を再構築し、進捗管理を徹底。3つのエリアPTは解消し、新たに2つのテーマPTを新設。さらに庁外との対話の場(Network)と接続

↓①毎年の推進本部会議で進捗管理を徹底

↓③庁外の声を取り入れる対話の場を確保

Well-Moving推進本部会議

(局長級)※本部長:天野副市長

Well-Moving推進幹事会

(部課長級)  
※事務局:政策推進担当部

実践を活かした施策の反映

<関係各課>  
・交通部局  
・環境部局  
・経済部局  
・福祉部局 など

エリアマネジメント推進PT

パブリックスペース活用PT  
(道路・公園等管理者含む)

「(仮称)Well-Moving Network」

産学官民が  
つながる、ためす、育てる場

■ 参画イメージ(無料登録制)

- ・正会員:エリマネ、まちづくり協議会、商店街等の団体
- ・パートナー:民間企業等(実証フィールドの提供)  
大学等(研究フィールドの提供)

- ・事務局 :札幌市まちづくり政策局 政策推進担当部
- ・関係課 :都心まちづくり推進室、都市計画部、  
事業推進担当部、など

↑パブリックスペース活用ガイドラインのフィードバックを受ける

②各管理者を含めた推進体制を構築↑

※3つのエリアPT(都心、地域交流拠点、住宅市街地)は発展的解消



白い恋人パーク前の社会実験(宮の沢)



サッポロウォーカーシンポジウム2025

# パブリックスペース活用ガイドライン(現在作成中)

市内の公共的空間(道路、公園、広場等)の活用事例や手続き、支援制度等をまとめたガイドラインを作成し、令和8年春に初稿公表予定。

## ○作成の背景:

令和6年度の公募型実証実験実施団体より、「そもそも活用できることが知られていない」、「手続きがまとまった冊子がほしい」との声

## ○更新体制:

まず現時点の制度等を取りまとめたガイドラインを作成し、今後Networkなどの場で現場の声を拾い、より活用しやすい内容に更新を予定

## ○形骸化を防ぐ仕組み:

庁内に「パブリックスペース活用PT」を組織し、各管理者(道路、公園等)も参加することで、活用側と管理側が相互に対話できる仕組みを検討



パブリックスペース活用ガイドライン(案)イメージ

# パブリックスペース活用ガイドラインの構成①

## 1, はじめに

- パブリックスペースの位置付けや活用することの目的などを記載

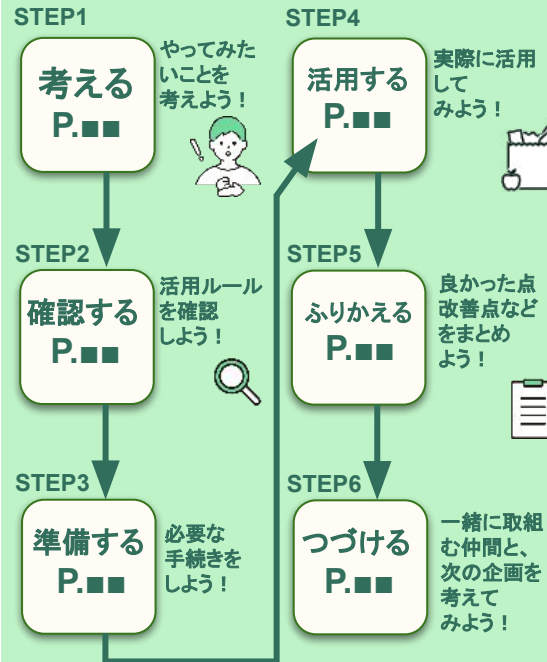
## 2, ガイドラインの使い方

- 個人や団体、地域の方々が主体となり、パブリックスペースを活用することを想定し、検討段階（STEPごと）に、該当ページを参照できるような使い方を掲載
- 活用している写真も掲載予定

## 3, 活用に必要な手続き

- 「場所」と「活動」の観点から一般的なルールを整理

## 2, 検討STEPごとの使い方



## 3, 一般的なルール

**場所** どこでやる？ ～公共的空間ごとのルールを知ろう～

公共的空間には、ルールが定められており、これに基づいて“できること”と“できないこと”が存在します。

	公開空地等	公園	道路
国のきまり	建築基準法・都市計画法	都市公園法	道路法・道路交通法
市のきまり	札幌市が定める条例や規則		
独自ルール	規模や立地等に応じた、場所ごとのルール		

**活動** なにをする？ ～用途ごとに手続きを押さえよう～

公共的空間を利用する際は、活動の内容によっては別途許可や届出が求められる場合があります。

例えば...

- 空間の一部に工作物を設置する → 「占用許可申請」が必要。予めどのような物を設置するのかを整理しておこう！
- 飲食を調理して提供する → 「営業許可申請」が必要。予めどのような物を調理し、提供するのかを整理しておこう！
- 火気を使用して催し物をする → 「開設届け出書」や消火器の準備が必要。また、場所によっては火気使用自体が厳禁な場合があることにも注意しよう！

# パブリックスペース活用ガイドラインの構成②

## 3, 活用に必要な手続き

- オープンスペース（公開空地等）
- 道路（自由通路含む）
- 公園
- 広場

## 3, オープンスペース活用手続き

### ■ オープンスペースの定義

オープンスペースとは、建築物の敷地内に整備された空間のうち、公開空地など、一般に開放された空間のことをいう

### ■ オープンスペースの活用事例



フリーマーケット  
(新さっぽろアクティブガーデン)



お祭り会場  
(豊小路 moyuk SAPPORO)

### ■ 手続きの流れについて



### ■ 活用基準

### ■ 禁止事項

### ■ 心がけていただきたいこと

### ■ 代表的な使い方の一覧表

道路、公園、広場についても、ほぼ同様の構成の予定

## 4, 活用内容により必要な手続き

- ・ 飲食：営業許可
- ・ 防火：開設届出書
- ・ 保険：地域活動保険 等

## 4, 活動内容によって必要な手続き

### 飲食・営業許可

#### ■ 概要

- 食品を調理・提供する場合は、原則営業許可が必要です。
- 札幌市では、公共性の高い「お祭り」や「イベント」等の地用行事に際して、アット等の簡易な影響で食品を調理・提供する【臨時営業】を認めています。
- 施設や行事内容によって調理できる食品や手続等が異なりますので、詳細は担当窓口までご相談ください。



#### ■ 対象

- 運用行事 ※次のいずれかに該当する行事（営業期間は30日以下）
- 国、札幌市又は他の地方公共団体が主催、共催、寄賛、後援する行事
  - 祭典、花火祭市民を対象として行事で前倒し、民団の提供施設を併用する行事
  - 盆踊り、納涼祭、区民祭り、チャリティイベント等で運営町内会、商店街、各種団体等が主催し、地区住民を対象とする公共向色彩の強い行事
- ※上記の運用行事に該当しない場合（例：平日、スーパーマーケット等による催事、有料イベント）はテナント等の協賛を条件で食品系できません。  
※臨時営業許可制度では、団体構成の施設等を目的とした小規模な行事では、許可が不要な場合があります。（許可が不要な場合は、食品の衛生的な取扱いや廃棄物処理のための、行事の「見物時間」を提出してください。）

#### ■ 調理・提供できる食品

- 運用行事 ※次のいずれかに該当する行事（営業期間は30日以下）
- 臨時営業許可制度では、調理・加工が可能な食品（例：現場で焼く、煮る、蒸す等の一目的調理で完成する食品）
- 調理・提供できる食品例  
おまんこ、揚げ、焼き魚、焼き肉、いか焼き、天ぷら、焼きそば、フライドポテト、ホットドッグ、お好み焼き、ビール、ジュース類、コーヒー、煎茶、甘酒、たいやき、お好み、クレープ、ドーナツ、ベトナム春巻、チョコバナナなど

※生入れた食品を調理・加工せず、そのままの状態を提供する場合（包まれている食品や食品を焼く）や、焼おめ・焼きとうもろこしなどの既製加工品を提供する場合、営業許可は不要ですが、「営業届出」が必要です

## 5, 支援する取組・制度・事例 (活用実践者の声を含む)

# 3 質疑

---

2)ビジョン実現に向けた今後の取組案

# 4 閉会挨拶

札幌市まちづくり政策局政策企画部  
須志田 健 政策推進担当部長



ご視聴ありがとうございました！

